

5 避難所運営訓練の実施

本校の実践委員の一人である臼杵市防災危機管理室長の板井幸則氏からの提案で、10月にある臼杵市総合防災訓練時に高等学校生で避難所運営訓練をやってみないかとの提案があった。高等学校生にどこまでやれるのかという不安はあったが、生徒の力を信じて取り組んでみることにした。

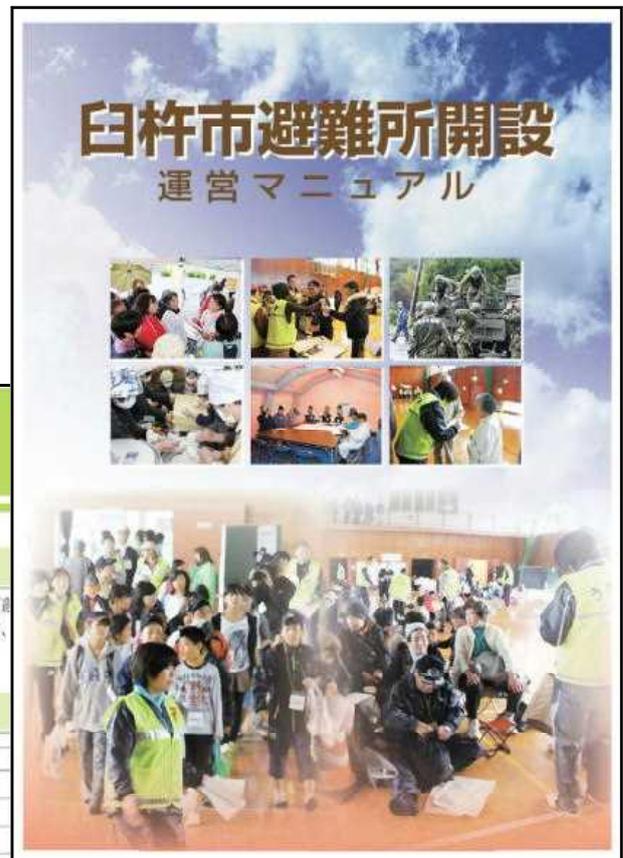
4つの部活動の生徒を中心に避難所運営スタッフを人選し、事前に何度も市職員と打合せを行った。当日は、どのようなハプニングが起ころうとも、大人は一切口出し、手出しをしないことを決め、生徒のみの避難所運営を実施した。(1 実践経過参照)

(1) 避難所運営マニュアル

当日の避難所運営は、臼杵市が臼杵市民とともに作り上げた「臼杵市避難所開設運営マニュアル」に沿って実施した。

マニュアルの全編は、臼杵市のホームページで見ることができる。

URL <http://www.city.usuki.oita.jp/docs/2014050900034/>



3 運営体制づくり

運営体制づくり

応急的な対応が落ち着いた段階（自衛は24時間～48時間後）で、避難所の運営にあたる「避難所運営協議会」を設置します。避難所における課題への対応や行政の災害対策本部との連携など、自主的に円滑な運営を進めます。

避難所運営協議会の構成

	氏名		氏名
総務班 班長 (代表者兼任)		副班長	
供給班 班長		副班長	
検閲・衛生班 班長		副班長	
防災班 班長		副班長	
福祉班 班長		副班長	

*運営協議会に女性も参加できるように配慮しましょう。

情報共有のための会議【情報の一元化】

市

班長

班員

避難者

情報集約 ↑

情報提供 ↓

●班長会議

- 会議は定期的開催します。
- 会議のメンバーは、運営協議会の班長・副班長（上記組織図のメンバー）で開催します。

●班別会議（実務者会議）

- 班ごとに実施レベルの話し合いを週一回行います。
- 班別会議の内容は、班長会議での内容や情報等について班員に伝達し、班での課題等は班長会議に報告します。

※一人で悩まず、皆さんで情報を共有し、解決策を見出しましょう。

【臼杵市避難所開設運営マニュアル】

※詳しくは「Ⅲ資料1(4) (抜粋)」を参照

(2) 実施要項

臼杵市総合防災訓練における避難所運営について（臼杵高等学校）

1 目的

- (1) 災害時に近い状況を想定し、安全かつ迅速に避難し、また避難所を運営する上での混乱や様々な課題について学習することで、災害時にとるべき行動について学ぶ。
- (2) 被災者と同時に支援者にもなり得るという意識を高めるとともに、主体的に考え判断し、行動する力を育成する。

2 期日 平成26年10月26日（日） 9：30～11：30

3 参加者

臼杵高等学校生徒（1年生 240名）及び教職員
臼杵市役所職員
北海添地区防災士
北海添地区住民（100人）
臼杵造船所の外国人労働者（20名）
海添保育園の園児及び職員（100名）

臼杵高等学校生徒の役割

①避難所運営スタッフ（60名）

※サッカー部、野球部、ソフトテニス部、女子バレーボール部員で編成。

- 下記の5班に分かれて活動する。

総務班 避難所の各班の活動が円滑に運営できるように統括

供給班 食料、飲料、救援物資、日用品の調達・配給・提供・管理

施設・衛生班 避難所の巡回および危険箇所対応や避難所の衛生管理

防災班 避難所周辺の巡回・報告、ボランティアの受入管理

福祉班 要援護者の支援・管理、被災者のケア

②避難者（180名）※30名は問題がある避難者の役割を演じる。

- 集団で泣く、携帯ゲーム機をずっと触っている、無関心で下を向いている等

5 日程

9：30 避難所運営訓練開始

- ・運営スタッフ以外の生徒は、9:45までに2クラスずつ体育館に入り、避難者となる。
- ・外部の避難者が避難してくるタイミングは、実際に即し未定とする。
- ・ライフラインの寸断を想定し、体育館の照明は消灯。
- ・災害用伝言ダイヤル（体験コーナー）設置。

10：20 発電機、照明搬入

10：30 ライフライン復旧、避難所物資搬入

- ・体育館の照明点灯。
- ・テーマソングをリピート再生し、小音量で閉会式直前まで流す。
- ・段ボール、間仕切り搬入。

- ・段ボールを組み合わせ、ベッド、椅子を作成。

10:40 救援物資搬入（水100本、空段ボール箱50個、段ボールトイレ5個）
 11:00 救援物資搬入（おにぎり500パック）
 11:05 物資配給
 11:10 避難所視察（臼杵市長、市議会議長による避難所激励訪問）
 11:20 閉会式

次第

- ・講評 大分県社会福祉協議会大分県市民ボランティア・活動支援センター
村野淳子さん
- ・挨拶 臼杵市長 中野 五郎
臼杵市議会議長 大塚 州章
- ・生徒代表感想発表 防災班班長 川辺 大樹

6 避難所運営の留意点

教職員や市役所職員は、できる限り指示を出さない。避難所では、避難者全員の利益を最優先に考え、主体的に行動する。

生徒以外の避難者として、地域住民、保育園児等が参加するので、積極的に交流を図るより実際に即した避難所運営になるように、避難者役の生徒のうち、30名が問題行動を演じる。

7 テーマソング

ヒカレ（ゆず）

※極度の精神的ストレスを伴う非日常空間において、連帯感を高めるために使用。

(3) 当日の様子



写真①

車いすの避難者と、その家族の方に避難所におけるルール等を説明している。



写真②

避難者の方々から様々な質問を受けている。



写真③

地区ごとに、避難者の人数や健康状態等をチェックしている。



写真④

外国人避難者の不安を和らげるために、会話をしている。(白杵造船所のフィリピン人研修生)



写真⑤

近隣の保育園児を、保育士と一緒に誘導している。



写真⑥

園児の不安を和らげるために、園児と一緒に遊んでいる。



写真⑦

スタッフと代わって、本校生との避難者が園児と遊んでいる。



写真⑧

地域の防災士と協力して、情報収集している。



写真⑨

避難者の様々な要求を聞き取りしている。



写真⑩

避難者の要求や質問に対して、回答している。



写真⑪

救援物資の間仕切り板を組み立てている。



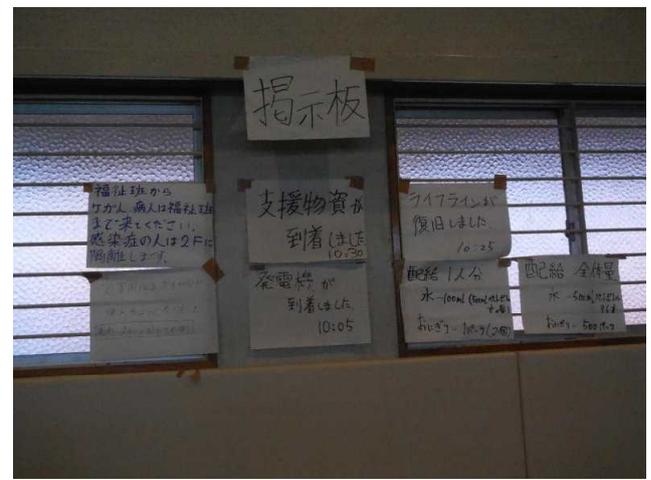
写真⑫

救援物資の食料を配布する準備をしている。(全員分無いので、配布する順番を考えている。)



写真⑬

救援物資の食料を配布している。



写真⑭

避難者に確実に情報が伝達できるように、掲示板を随時更新している。



写真⑮

NTTの協力により、災害伝言ダイヤルを設置している。

(4) 避難所運営訓練を振り返って（生徒の反省・感想）

	よかった点・できたこと	悪かった点・できなかったこと
総務班	<ul style="list-style-type: none"> ・避難者へ積極的な声掛けができた ・他の班の仕事の手伝い、フォローができた ・自分の出来ることを探して、臨機応変に対応した ・園児へ優しく対応した ・伝えたい内容を掲示した 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報伝達が不徹底(掲示板の存在)であった ・避難者との細かなコミュニケーションができなかった ・メガフォンが聞こえづらかった ・道具の準備不足があった ・供給物資が届いた時に連絡しなかった ・各地域への担当者の自己紹介をすればよかった
供給班	<ul style="list-style-type: none"> ・全員が協力した素早く行動した ・自分の係以外の仕事の手伝いができた ・自分たちで決めたことは実践できた 	<ul style="list-style-type: none"> ・物資が届くまで暇にしていた ・協力してくれた避難者をうまく利用できなかった ・後のことを考えずに、物資を配布した
施設・衛生班	<ul style="list-style-type: none"> ・最初は固まって動いていたが、時間が経つとそれぞれが考えて行動できた ・レイアウト通りに避難所を開設できた ・声掛け、呼びかけが出来た ・自分の役割を考えて積極的に行動できた ・間仕切り段ボールを組み立てる時、協力できた 	<ul style="list-style-type: none"> ・不安を訴える人の人のための相談室が必要だった ・園児の遊び相手の中にスタッフが多かった。高等学校生の避難者に任せてもよかった ・感染者への対応(どこに隔離室を作るか等)はもっと工夫をする必要がある ・どこが何の部屋かを各班長に知らせるできであった ・お知らせの文字をもっと大きく書けばよかった
防災班	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりが自分の役割ができていた ・避難者の誘導をうまくできた ・準備がきちんとできていた 	<ul style="list-style-type: none"> ・困りがある避難者への対応が足りなかった ・自分の仕事しかしなかった ・総務班との情報の伝達がうまくできなかった
福祉班	<ul style="list-style-type: none"> ・避難者一人ひとりに声を掛けることができた ・助けを求めて来た人への対応も良かった ・協力してベッド作りができた 	<ul style="list-style-type: none"> ・負傷者のことを気づけていなかったのもう少し視野を広くすればよかった ・トイレの場所を知らせる矢印など、目印を作成しておけばよかった ・パトロールは出来たが、担当地区を決めていなかったのも、責任者を決めておくべきであった ・外国人への対応をもっと考えておけばよかった ・一般の避難者から医療のできる人をさがすことをしなかった